

## ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

### 2023年（卯年）、新年明けましておめでとうございます。

#### ● 縁起がいい初夢、「一富士二鷹三茄子」。

縁起を担いだ初夢の話は、徳川家康生誕地の駿河国の名物三つを並べたという説がある。子供の頃。中高層ビルが建つ高度成長期以前の東京では、特に冬の寒い朝は白雪を冠した綺麗な富士山が、町のどこからでも見えた。坂が多い都内には、「富士見坂」という地名が多く残っている。



#### ● 古（いにしえ）の江戸。

地名の由来は諸説あるが、①海から川を臨んだ江の戸（入り口）、あるいは入り江のある所などの意味で、江戸の「門戸」説、②江の湊（みなと）説などが有力だ。武蔵江戸氏は平安時代の末（12世紀半ば）、武蔵江戸郷を領していた。のちの徳川家・江戸城の本丸、二の丸の周辺の台地に居館を構えていたと考えられる。長禄元（1457）年、江戸氏に代わり太田道灌が平屋建ての館＝江戸城を建てる。いま思い浮かべる高く聳えた天守を曲輪と二の丸、三の丸が囲み、城郭の周りに武家町、寺町、町人町が造られた城下町は、織田信長が建てた安土城が始めである。

#### ● 徳川家康の開府と江戸城。

天正18（1590）年、豊臣秀吉により関東に移封された徳川家康は、すでに整備された「小田原」や「鎌倉」ではなく、辺鄙な湿地帯だった「江戸」を府に選ぶ。内海にあり水運（物流）に適した場所で、背後の関東の平地に注目したとされる。家康は、江戸城の建設、河川の付け替え、湿地の干拓、都市の整備などに着手する。家康が江戸に入府した当時、利根川と荒川は埼玉の越谷辺りで合流して、江戸湾に注いでいた。川の流域は度重なる洪水で大湿地帯だった。そこで利根川を分離して流れを太平洋の銚子沖へと東に変えて（東遷）、併せて新田開発を行った。いまの日比谷、銀座あたりは、湿地や海の浅瀬を埋め立てたところである。江戸城の天守は、初代将軍家康、二代将軍秀忠、三代将軍家光に渡って三回、建て直された。三將軍の不仲という穿った話もあるが、急激な江戸の町の発展と人口の増加により、行政機関としての江戸城が繰り返し拡張されたのが理由である。大阪城の天守を凌ぐ、高さおよそ60mの日本一の江戸城の天守と、美しい富士山を、日本橋の界隈から望む浮世絵が残されている。

12月の定例会 参加者は、1日（木）は16名、9日（金）は13名でした。  
1月の定例会 5日（木）、13日（金）。新年最初の会です。